

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立小将町中学校

(※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒920-0932

石川県金沢市小将町1番15番

E-mail koshoumachi-j@kanazawa-city.ed.jp

Website <http://cms.kanazawa-city.ed.jp/kosyoumachi-j/>

幼児児童生徒数 男子 144名 女子 129名 合計 273名

幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は「自ら学び、創造する意慾をもった、心豊かでたくましい生徒の育成」を学校理念として、ESDの実践を通して問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む力の育成を目標とした。

具体的には、伝統文化、表現活動、現代の世界を柱に、①伝統文化にかかわる活動、②表現活動に係る活動、③環境に係わる学習を行った。

①伝統文化に係わる活動

【1年生】「郷土金沢の伝統文化」

地域の伝統や文化の継承を目指した取組として、フィールドワークを通して各自の課題の調査をし、郷土金沢を理解する学習を行った。観光都市金沢、金沢の伝統工芸、金沢の歴史、金沢の食文化、金沢の文豪、金沢の祭りなど班ごとにテーマを決め、その後調査結果をまとめ、壁新聞として発表した。

【2年生】「伝統文化」

同じ加賀藩の城下町である金沢と高岡の伝統文化の現状と課題について、各自が探究するテーマを設定し、現地でのフィールドワークを通して郷土の理解を深める学習を行った。初めて訪れる場所で金沢とは違う文化や歴史に触れ、多くのことを学ぶことができた。調査結果はそれぞれが壁新聞にまとめ、発表した。

【3年生】「金沢と京都の伝統文化」「現代の世界」

武家の伝統文化が残る金沢と公家の文化が残る京都の比較から、伝統文化について理解を深める学習を、京都班別学習を通して行った。また、金沢の姉妹都市とその国について調べ、各国の交流員を招いて交流会を実施した。姉妹都市（国）と金沢（日本）との比較・検証に取り組んだ。さらに、金沢紹介のパンフレット作成に取り組んだ。各班で工夫を凝らし、これまでに学んだことを生かして金沢の魅力を伝えるパンフレットを作成することができた。

②表現活動に係わる活動

「総合的な学習の時間」の目的である課題発見力・課題解決力・表現力の育成の集大成としての発表の場を設けている。例年3年生が国語科では、『小論文』（各自のテーマに基づく意見発表）、理科では、『プレゼンテーション』（パソコンを使った研究発表）、英語科では、『英語スピーチ』（英語による意見発表）、総合的な学習の時間では、『ポスターセッション』（テーマに基づく新聞切り抜きポスターによる意見発表を行っている。ポスターセッションは各クラスで発表を行い、生徒同士で代表決定し、全校の前で発表をしている。1・2年生は、3年生の発表を聞いて学習する機会となり、意見発表を行う3年生の姿が目標にもなっている。

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

③環境に係わる教育

(1) 植林地作業

本校は、市内でも数少ない学校植林地を持つ学校である。卯辰山の総面積8271坪の地で、戦時中は食料増産の一翼として山林を開拓し、畠として活用していたが、戦後植林地として松や杉などを植林し今日に至っている。創立記念行事の一環と位置づけ、毎年5月に全校生徒、教職員、保護者が協力して植林地作業（植樹、下刈、つる切り、下枝切り、雪倒れ直しなどの作業）を行うことで、学校を愛する心を育み、自然を大切に作る心を育てる学習を行っている。

(2) 生徒会活動の取組

生徒からの発案である「エコキャップ運動」を通して、普段ゴミとして捨てられているペットボトル飲料のキャップを回収してリサイクルするとともに、その売却益で途上国の子どもたちにワクチンを送る活動を行った。合わせて、キャップがゴミとして捨てられた場合、焼却処分されてCO₂の発生源になるなどの環境問題に関心を持たせる機会を設けた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

なし

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールとしての主な活動を総合的な学習の時間などで行っている。金沢ふるさと学習として「郷土金沢の伝統文化」(1年)「伝統文化」(2年)「金沢と京都の伝統文化」「現代の社会」(3年)「表現活動」(全年)を学習テーマとしている。また、学校行事として、学校林の植林地作業がある。
--

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

文化祭を発表の場として、1年生では郷土金沢の伝統文化の継承、2年生では伝統文化、3年生では金沢と京都の伝統文化をテーマにして調べ学習、壁新聞作成そして発表の順に学習を深めてきた。総まとめとして、3年生の代表が全校生徒の前で研究成果を発表する機会を設けている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

生徒授業アンケート、保護者アンケート、教職員アンケートを実施している。

生徒授業アンケート項目の、「自分の考えとしてまとめ振り返りができましたか」「お互いの考えなどを発表したり伝え合う場面がありましたか」では好意的な結果が出ている。さらに、活発な伝え合いが深まるように活動や発問を工夫していきたい。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

文化祭での壁新聞の掲示(1年金沢フィールドワーク、2年高岡自主プラン、3年京都自主プラン)3年生による新聞から資料を収集し行う、ポスターセッション活動がある。代表生徒によるポスターセッション発表や、国語、理科、英語による発表を行い、お互いがそれぞれのテーマで成果を学び合うことができる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

5月には金沢市役所の森林緑地の専門家とともに学校林において植林活動をしている。地球の温暖化や森林の役割について学んでいる。

7月のボランティア活動の日に、校区の2つの小学校とともに水害にあった浅野川や兼六園周辺の清掃活動をしている。自然災害について学ぶとともに、人々が支え合うことの大切さを学んでいる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

金沢市一斉「絆」活動の取組として、毎年7月28日に行っている「金沢児童生徒ボランティアの日」に校区内にある2つの小学校（金沢市立馬場小学校・金沢市立明成小学校）とともに、浅野川河川敷や兼六園周辺、各学校周辺や公園等の清掃活動を行っている。小中連携活動の一つとなっている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

7月の浅野川周辺の清掃活動や、5月の学校林の植林地活動において地域や保護者と協力体制がさらに整った。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

本校では、生徒にとって身近であり、本市の大きな特色である「伝統文化」や自らが「生きる」ことを主な学習内容として、各分野の専門家からの指導や、個別・協同の探究活動を通して、これからの社会を生き抜く力としての情報収集力、課題解決力、表現力等を兼ね備えた持続可能な社会の担い手となる人材の育成を目指している。

ユネスコスクールとしては、金沢ふるさと学習として「郷土金沢の伝統文化」（1年）「伝統文化」（2年）「金沢と京都の伝統文化」「現代の社会」（3年）「表現活動」（全学年）を学習テーマとしている。

新しく、オリンピックパラリンピック教育として、ボランティアの意味、職場体験時のバリアフリー、ユニバーサルデザインの発見、外国人留学生などとの触れ合いや新聞記事などを通してオリンピックパラリンピックについての新たな発見をまとめる。